

利用者の主体性を促進する建築的仕掛けの設計手法に関する研究

A Study on Design Methods for Architectural Devices that Promote User Agency

○木下凜音¹, 二瓶士門², 佐藤慎也³,

*Rio Kinoshita¹, Shimon Nihei², Shinya Sato³

Abstract : This study focuses on the concept of “democratization of architecture” and seeks to clarify its characteristics and challenges by analyzing case studies of current practices that encourage active user participation.

1. 背景と目的

従来の建築では、設計主体は設計者に限定され、利用者は空間を受動的に享受するにとどまってきた。松村の「ひらかれる建築」¹⁾では、利用者が主体的に建築に参加(以下、主体性)し、設計者と利用者の双方で建築ことを「建築の民主化」と表現している。本研究では「建築の民主化」に着目し、利用者の主体的参加を促す仕掛けとして現状どのような取り組みがなされているのかを事例を分析することで整理し、課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、主体性を「DIYによる介入」と位置付けた。この位置付けをもとに、新建築データで「DIY」と検索した。ヒットした事例のうち主体性を促す仕組みが多く見られる点から、住宅に機能を絞って日本の住宅事例54件について主体性を促す要素を抽出する。それをもとに整理・分類を行い、現状の把握を行う。主体性の要素は主に建築家の文章、またそれに付随する画像を確認することで抽出を行った。

3. 結果

新建築の事例を「DIYの仕掛け」と構造ごとに整理したものが表1である。事例を整理した結果、分析の結果集合住宅と戸建て住宅で大きく傾向が異なった。

・共通項：「DIY壁」、「仕上げなし」、「DIYサポート(ソフト・ハード)」、「自主施工」、「空間の多様性」、「家具による多様性」、「コミュニティ形成」、「自然」の仕掛けは集合住宅にも戸建て住宅にも共通して見られた。

・相違項「コミュニティ形成」は集合住で

でのみ、「DIY用の空間」と「仕上げの工夫」は戸建て住宅でのみ見られた。

表1 新建築掲載事例分析結果

| | 事例数 | 集合住宅 | | | | 戸建て住宅 | | | |
|--------------|-----|------|-----|----|----|-------|-----|----|----|
| | | 構造 | | | | 構造 | | | |
| | | SRC造 | RC造 | S造 | W造 | SRC造 | RC造 | S造 | W造 |
| DIY壁 | 5 | 2 | 3 | | 1 | | | 1 | |
| 仕上げなし | 6 | 2 | | 2 | 2 | | | 1 | |
| 仕上げの工夫 | 0 | | | | 2 | | | 2 | |
| DIYサポート(ソフト) | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | | |
| DIYサポート(ハード) | 1 | | | 1 | 9 | | 1 | 8 | |
| 自主施工 | 2 | | 1 | | 1 | 8 | | 8 | |
| 空間の多様性 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 4 | |
| 家具の多様性 | 1 | | 1 | | 1 | | | 1 | |
| DIY用の空間 | 0 | | | | 3 | | 1 | 2 | |
| コミュニティ形成 | 5 | | 3 | 1 | 1 | 0 | | | |
| 自然 | 1 | | 1 | | 2 | | 1 | 1 | |
| その他 | 1 | | | 1 | 0 | | | | |

次にそれぞれの項目ごとに焦点を当てる。

・DIY壁：DIYが行われることを想定されている壁で部屋の一部分だけこの仕様になっている事例が多い。集合住宅の事例で多く見られるDIY壁は戸建ての事例では1事例しか確認されなかった。これは戸建て住宅ではDIY壁以外の方法で主体性を促進する仕掛けがなされていることが関連していると考えられる。

・仕上げなし：仕上げをしない理由については、集合住宅の事例では「DIYを促す」などの記述が多く見られたが、戸建て住宅では、利用者が作る家具との調和を想定しているという記述が見られたことが、特徴的であった。

・仕上げの工夫：戸建て住宅事例では、仕上げをする部分としない部分と区別するなど仕上げに工夫をすることで主体性を促す部分と促さない部分を利用者に明示している事例が見られた。

・DIYサポート(ハード)：戸建て住宅で見られたDIY壁以外のDIYを促進するシステムとしては、空間の構成を利用者に見せることで利用者に建物の構造を理解

1：日大理工・院(前)・建築, 2：日大理工・教員・建築, 3：日大理工・教員・建築

できるようにし,(図1),空間に介入しやすくするものなどが挙げられ,これは木造住宅であるからこそその仕掛けであると言える。

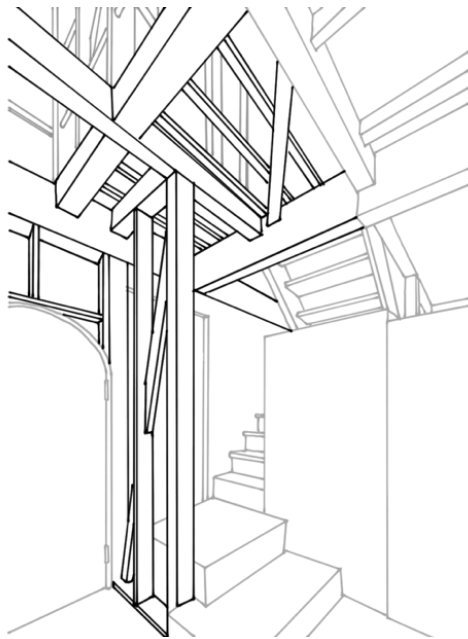


図1 建物の構造が視覚的に明確になっている例

・多様性 (空間) : 主体性を促進する仕掛けの中には直接的に DIY を促していないものも見られた。あえて空間の機能を限定させないことで利用者の構想力を促すというものである。図2は一例であり,引き戸の開閉によって内外の境界を利用者が変えることができ,それによって利用の仕方を選択できる。このような多様性の事例は集合住宅でも,戸建て住宅でも同じように見られ,汎用性が高い仕掛けであるといえる。

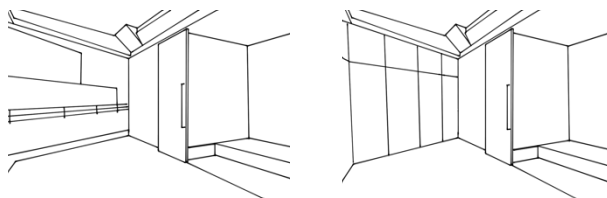


図2 多様性 (空間) の例

・多様性 (家具) : 多様性には空間だけでなく,家具の多様性も見られ,図3はその一例である。ダイニングテーブルが客用のベッドにもなる例であり,家具の多様性から空間の多様性へと繋がっている事例である。

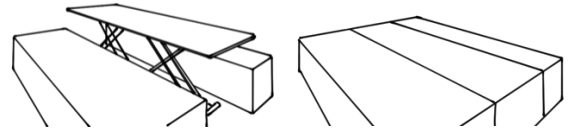


図3 多様性 (家具) の例

・コミュニティ形成 : 集合住宅で特徴的であった項目である。DIY を行いながら,それについての情報を住民と交換するものであり,そのようなコミュニティの形成は,利用者の主体的な働き掛けを継続させるシステムとして機能すると考えられる。

4. 課題

以上の結果から,戸建て住宅では多くの試みがなされていることがわかった。これは対象とする利用者が明確になっていることで空間に反映させやすく,また構造などの観点からも利用者参加の促進がしやすいことが要因として考えられる。自主施工などで容易に利用者を巻き着込むことができるため,その後の主体性にも繋がりやすい。

反対に集合住宅は,構造的な制約や,戸建て住宅より広い利用者により,行える操作が少ないことが現状として挙げられる。しかし,コミュニティ形成など集合住宅だからそこ発展可能性がある仕掛けも見出すことができた。

5. 今後の展望

今回の調査によって,集合住宅における課題点を発見することができた。今後は今回発見できた集合住宅における課題を解決していくための設計手法に焦点を当てて研究を行っていく。その際,集合住宅の仕掛けの中で特徴的だと感じた,コミュニティ形成に着目してハードだけでなくソフト面からの課題の解決を同時に図る。

6. 参考文献

1) 松村秀一 : 「ひらかれる建築-民主化」の作法, ちくま新書, 2016. 10